明日の淡海

VOL. 42
2023.06

－自然と人との共生をめざして－

公益財団法人 淡海環境保全財団

南湖で釣りを楽しむ人（守山市）

水草と人との新しい関係の構築をめざして

かつて、水草と人の営みには大変深いかかわりがありました。しかし、時の経過とともに人々の暮らしや価値観が変化し、現在では水草に対する人々の見方も変わってきました。

今回は琵琶湖の水草の役割や人とのかかわりに焦点をあて、これからの水草の管理や利活用のあり方について考えてみたいと思います。

琵琶湖は水草の宝庫！　生物の進化や生物多様性保全にとって重要な水草

皆さんは水草というと、どのようなイメージをお持ちでしょうか。琵琶湖で遊覧船に乗った時、デッキから見下ろすと、実にたくさんの水草が生えていることに驚かれた方もあるでしょう。船のスクリューに絡まないかと心配された方もおられるのではないでしょうか。でも実はこの水草、琵琶湖の生態系にとって、なくてはならない貴重な存在なのです。

琵琶湖には多種多様な水生植物が生育していますが、このうち茎や葉がすべて水中にあるものを沈水植物として区分し、これらを一般的に水草または藻と呼んでいます。多様な水草は魚類や水生昆虫の繁殖や棲み処、隠れ処であり、さまざまな生きものの生存や生育の場となっており、大変重要なものなのです。

そして、琵琶湖では、クロモやセンニンモなどの在来種をはじめ、外来種や近年みられなくなった種を含めると54種の水草が確認されており（Hamabata et al.,2020）※、中でもサンネンモとネジレモは琵琶湖だけにしか生育していない貴重な固有種です。このように多くの固有種が存在する琵琶湖は生物多様性の宝庫であり、水草は古代湖としての琵琶湖において生物の進化を知る意味でも重要な存在です。

※ Hamabata et al.,2020. In: Kawanabe H. et al. (eds), Lake Biwa: interactions between nature and people 2nd edition, pp. 35-43. Springer.

琵琶湖に生育する主な水草

クロモ

トチカガミ科クロモ属の在来種。茎に車の輪のように５～７枚の葉がつき、葉のふちのギザギザが目立つ。

ササバモ

ヒルムシロ科ヒルムシロ属在来種。葉には長い葉柄がある。冬になると殖芽で越冬する。

センニンモ

ヒルムシロ科ヒルムシロ属の在来種。琵琶湖で最も出現頻度が高い水草。茎が葉を抱き、葉の先端は丸い。

サンネンモ

ヒルムシロ科ヒルムシロ属で琵琶湖固有種。葉は互生し波打ち、先がとがる。

ネジレモ

トチカガミ科セキショウモ属で琵琶湖固有種。葉は細長くねじれている。琵琶湖の浅いところに分布する。

オオカナダモ

トチカガミ科オオカナダモ属で南米原産の外来種。基本的に４枚の葉をつけており、ちぎれた茎の一部から芽を出して増える。

写真提供：滋賀県琵琶湖環境科学研究センター
※サンネンモは「琵琶湖沈水植物図説　第4版（独立行政法人水資源機構琵琶湖開発総合管理所）」より

Index

1-2　**表紙特集**　水草と人との新しい関係の構築をめざして
3　**その人に聞く**　東京大学大学院都市工学専攻下水道システムイノベーション研究室　特任教授　加藤 裕之さん
4　**日本ヨシ紀行～ヨシの風景を訪ねて～**　山口県　きらら浜
4　**滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク**　大橋 一雄さん
5　**イベント参加レポート/「マンホールカードの聖地」が熱い！/ベトナムハロン湾から**
6-7　**ネットゼロ通信**
8　**おしらせ/イベント情報**

かつて水草は重要な資源だった！　水草と人との深いかかわり

水草は、琵琶湖の周辺で暮らす人々にとっても大切な役割がありました。船から引き揚げた水草は、すぐに畑に鋤き込んで土壌改良に利用したり、しばらく放置し発酵させて畑の肥料として活用するなど、貴重な資源として扱われ、江戸時代には水草の採取をめぐって村同士の争いが勃発したほどでした。

水草の採取は魚が産卵する６月～７月は禁止され、生きものへの配慮や持続可能な利用のためのルールも定められていました。また、８月１日の解禁日には夜明け前から競うように刈取りに向かう船が見られたとのことです。

このように、現在では想像もつかないほど利用価値が高く大切に扱われていた水草ですが、時代の変化とともにこうした生業もしだいに行われなくなり、水草と人との関わりも徐々に変化してきました。

「藻刈図」（安井金毘羅宮の絵馬）

いまや水草は厄介者？　異常繁茂した水草が引き起こす問題

水草と人との関係に決定的な転機をもたらしたのが、平成６年（1994年）の琵琶湖の大渇水です。その後、水深の浅い琵琶湖南湖で水草が異常に繁茂し、平成26年（2014年）には南湖全域がほぼ水草に覆われてしまいました。増えすぎた水草は漁船などの船舶のスクリューに絡み、エンジンが停止するなど航行に障害を及ぼします。また、切れて流れ出した水草が湖岸に漂着し腐敗することで、強烈な悪臭や景観の悪化を引き起こします。さらに、湖流が停滞し、水質が悪化するとともに湖底の溶存酸素量の低下により湖底にすむ生きものへの影響が心配されます。

このように、さまざまな深刻な問題を引き起こす水草は、地域の「貴重な資源」から「厄介者」へと変わってしまいました。

大量に陸揚げされた水草

水草との新しい関係をめざして　適正な管理と新たな発想による有効利用

こうした現状を少しでも改善すべく、当財団では滋賀県とともに、琵琶湖南湖における望ましい水草繁茂の状態に近づけるため取り組みを進めています。具体的には、水産資源が豊かで、航行に支障がなく、生活環境にも悪影響がない水草の繁茂状況をめざして、水草刈取などの適切な維持管理を行っています。

そして、琵琶湖から引き揚げた水草は、水草有効利用地で切返しなどの作業を行いながら堆肥化しています。出来あがった水草堆肥は、県内各地で県民や農家の皆さんに無料で配布した後、作柄や作物の生育状況等を「水草堆肥モニター」として報告していただいています。

水草堆肥の配布のようす

昨冬、水草堆肥の配布を３年ぶりに実施することができ、県内６か所の配布会場へ多くの方々にお越しいただきました。
今後も水草の有効利用にご協力をよろしくお願いいたします。

かつては人々の暮らしや生業と密接な関係にあった水草。時代は変化しましたが、水草の適正な管理と有効利用の取り組みを推進し、水草と人との間に新たな関係を築いていくことが、豊かな琵琶湖を将来にわたって守り育てることにつながります。

TOPICS!

もっと多くの水草の利用につながるよう、商品化の技術開発が進み、広がりを見せています。

Benir du lac(湖の恵)

土壌菌によって熟成発酵させた高品質な有機肥料は、室内の観葉植物用にちょうどいいと、都市部の方を中心に販売が伸びています。

琵琶湖の水草から作られた有機肥料
「Benir du lac(湖の恵)」

琵琶湖彩

粉末にした水草で発色させた、ゆるやかな水を思わせる美しい色あいのガラス工芸品は、全国のデパートやギャラリーの作品展で人気を博しています。

琵琶湖の水草で着色した
ガラス作品「琵琶湖彩」
（写真提供：glass imeca 神永朱美氏）

他にも、草木染や陶芸、革製品などのクリエイター作品に使用されるなど、これまでになかった水草の利用技術や商品の開発が展開されています。

自然と人との共生をめざして

その人に聞く

東京大学大学院都市工学専攻
下水道システムイノベーション研究室
特任教授　加藤　裕之 さん

全国で展開されている下水道と食の循環、「ビストロ下水道」。その名付け親の加藤さんは、２度にわたって滋賀に赴任され、瀬田川洗堰や県の下水道の発展に尽力されました。現在は東京大学での教鞭に加え、下水道政策や国際水環境ビジネスなどの専門分野に留まらず、官民連携や市民科学など、人々や地域とのつながりを重視したプロジェクトを精力的に推進されています。

先頃、首相官邸より下水汚泥たい肥化の利用拡大の指示があり、「ビストロ下水道」はより本格的に動き出そうとしています。当財団も数年前から取り組んでおり、大学の研究室でお話を伺いました。

加藤　裕之さん

－先生は滋賀県とのご縁がおありですね。思い出や、印象に残っていることは何でしょうか。

加藤さん　世界湖沼会議や世界水フォーラムなど、滋賀県にお世話になった3年間に、滋賀らしい世界的な環境イベントのタイミングに当たったので、一緒になって盛り上げたのは良い思い出です。

個人的に一番印象的だったのは、びわ湖花火大会。それから湖畔のサイクリングにもよく出かけました。

－ビワイチの先駆けですね。やはり滋賀と言えば琵琶湖、環境ということが印象深いのですね。

加藤さん　そうですね。各地域の環境への強い思いのある方々とも議論する機会に恵まれました。石けん運動から続く滋賀のカルチャーをずっと感じていました。市民が何かを動かしていくパワーは、滋賀ならではです。

－当財団も、先生の「ビストロ下水道」に取り組んでいます。職員がコンポストのサンプル配布など県内で啓発し、少しずつ理解が広がっています。

加藤さん　食糧問題は世界的な課題ですが、実践は地域からです。滋賀で今うまくいき始めているのは、循環型社会に対する意識の高い方々に出会えているからだと思います。意識の高い方にまず試してもらって、いい物ができることを目に見える形で示していただくというのが、うまくいく一つのステップになると思います。

汚泥たい肥は世界的な動きです。フランスで８割、イギリスでは９割と、ヨーロッパでは既に普及しています。オーガニックへのこだわりから土に戻すということが文化として定着しています。

－どうしたら日本でも広く普及するでしょうか。

加藤さん　今、化学肥料がとんでもなく値上がりしていますよね。下水汚泥は微生物の塊です。また、栄養素である窒素とリンを豊富に含み、微生物が土を肥沃にする効果があります。有機質でしかも安い。絶対良い物なので農家の方も使うとわかってくれます。

地域の循環資源として持続するには「下水道管理者」、「肥料を使う農家」、それからそれを「食べる人」。この三者にメリットがないと長く続かない。ふと思ったのは、滋賀県の近江商人の知恵、「三方よし」の仕組みを作ることがすごく大事だということです。

滋賀県で「ビストロ下水道」を広げるための勉強会で推進関係者と
（写真右：右が加藤さん）

－ここでも三方よしですね。みんながメリットを感じる三方よしの流れを作るお手伝いができればと思います。

加藤さん　良い商品であること、そして安全性も伝えなければならない。ブランド力を持つといいなと思います。

「ビストロ下水道」のネーミングは、下水コンポストで作った作物のおいしさまで表現しないとだめだと考えました。「じゅんかん育ち」という素晴らしいネーミングは全国に公募しましたが、服部栄養専門学校の服部幸應先生に委員長をお願いして選定してもらいました。「これがいい！」とおっしゃって。名前はとても大事です。滋賀でも独自の名前をつけられるといいですね。

－そうですね。滋賀オリジナルのブランド名を公募してPRする、財団の役割ですね。

加藤さん　ぜひ。下水コンポストは一般的に窒素・リンは豊富ですが、肥料効果としては窒素Nと炭素Cの比率が重要です。成分調整のために少し炭素分を加えると良いのですが、炭素分の補給と発酵促進のための空気を入れるストロー効果として地域で余っている稲わらを混ぜる地域もあります。

－財団のヨシも使えそうですね。

加藤さん　はい、効果を期待できます。もともと滋賀は「環境保全型農業」を目指していますよね。こういうものを広げていく基盤がある。財団の役割として、ブランドアップや情報発信と、できた作物の販路の確保を期待します。

－今後の方向性として、下水汚泥とヨシ、水草など地域の有機資源で作る新たな地域バイオマス循環の構築を、滋賀県とともに進めていこうとしています。

加藤さん　下水道施設も窒素やリンといった生物の成長に欠かせない物質の循環に大きな役割を果たしています。食べ物に含まれる窒素やリンは、各家庭から排出され下水処理場に集まってきます。滋賀県の水処理は、全量高度処理が売りでした。全国で唯一です。高度処理をしているというのは結局、窒素・リンを集めているのですよね。「琵琶湖に流さない、止める」という意味の高度処理だったのが、これからは逆に、「窒素やリンを利用するために集めている」ということになります。

－すごい！まったく逆の発想ですね。

加藤さん　そういう位置づけの事業に、滋賀県の高度処理は変わっていくのではないですか。

－たい肥の炭素源＆ストロー効果でヨシを使う、滋賀らしい物の生産につなげる、ブランド名の公募、の３つを、これからの財団の重点取り組みとします。

加藤さん　ぜひ面白いことを考えてください。面白い、楽しい、が「持続」のためのポイントです。

日本ヨシ紀行

ヨシの風景を訪ねて

第16回　きらら浜（山口県）

古(いにしえ)よりこの付近は、山からの河川が瀬戸内海に入り、その河口部分にヨシ原が点在していました。江戸期から新田開発が行われ、1964年に国営事業で約280haの阿知須(あじす)干拓地が完成しました。その後の農業政策の転換で自然が再生し、周辺の豊かな環境とあいまって、野鳥をはじめとする多くの生き物の楽園となりました。

きらら浜自然観察公園
ビジターセンターを望む

その後この地は、1998年に「阿知須町きらら浜」と、2001年には「山口県立きらら浜自然観察公園」として整備され、干潟、汽水池(海水と真水が交わる池)、淡水池、樹林帯など、かつての山口の瀬戸内海側で見られた原風景が整いました。

ここでは淡水池と汽水池に、あわせて4haのヨシ原があり、生態系の違いを一望できるところが見所です。淡水池のヨシの丈は、取材時(7月上旬)に2m前後で、豊富な種類と数のトンボ類が見られました。

一方、汽水池のヨシの丈は淡水池より低く、特に海に近い側は、塩分の影響か、丈の低さが目立ちました。二つの池はつながっており、大変興味深いです。

阿知須干拓地では、地元の方がヨシ焼きを2~3月に実施されていましたが、公園造成後に中止されると、ヨシ原はみるみる衰退しました。そこで2008年より付近への虫害の防止とヨシの弱勢化対策として、毎年3月に公園内でヨシ焼きを行っています。現在は、ヨシ原の健全化と野鳥等の生態系保全のため、隔年で半分ずつヨシ焼きを行い、春の訪れを知らせる風物詩となっています。

公園汽水池のヨシ原

協力　山口県立きらら浜自然観察公園

滋賀県地球温暖化防止活動推進員リレートーク

大橋 一雄さん
大津市在住

今回は、センター公式YouTubeチャンネル「地域にとび出す！滋賀県地球温暖化防止活動推進センター」の動画講座に出演されるなど、コロナ禍にあっても地道に活動され、今春からいよいよ本格的に地域にとび出されているこの方です！

「1枚のチラシ」が私を推進員へ導いてくれました。定年退職が目前に迫り退職後について考えていたところに、「滋賀県地球温暖化防止活動推進員募集」に強いインパクトを受けました。特に特技や秀でたものがあるわけではないですが、物事に熱心に向き合う性格は推進員向きではと、勝手に思い込んで応募しました。

現在はフローティングスクール事前学習を中心に、小学校で出前講座を行っています。学校では大切な授業時間を割いて講座に充ててもらっているので、常に新たな気持ちで一期一会の心構えで臨んでいます。
児童の満面の笑みと懸命に考えている様子を見ながら共に過ごす時間は、私にとって至福のひと時です。

推進員の草の根運動により温暖化ストップの花が咲くことを願っています。

センター公式 YouTube 動画
「地球温暖化ってなあに？」に出演する大橋さん

滋賀県地球温暖化防止活動推進員は、地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、滋賀県知事より委嘱され、普及啓発活動を推進されています。

環境広場ほっかいどう 2023
～G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合開催記念イベント～

参加レポート

京都女子大学大学院 発達教育学研究科 教育学専攻 博士前期課程１年
滋賀県地球温暖化防止活動推進員　駒井 千春

2023年4月15日(土)、16日(日)に札幌ドーム(札幌市豊平区)とバーチャル空間で開催された、G7札幌 気候・エネルギー・環境大臣会合の開催記念イベントで、「全国地球温暖化防止活動推進センター」のブースと「若者共創プロジェクト」に参加しました。

「全国地球温暖化防止活動推進センター」ブースでは、私も参加した令和４年度の「環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業」で実施した大学生の取り組みについて、ポスター展示と来場者への説明を行いました。山田美樹環境副大臣へ説明する機会をいただき、「マイボトルを持ち歩いていても大学で飲み切って空になるとペットボトル飲料を買うことになる」と伝えると、「なるほど。だから給水機が必要なんですね。」と納得されていました。

山田環境副大臣に説明

「若者とのサステナブル共創プロジェクト」では、気候変動について具体的な行動を起こしていくための一歩に参加することができ、大学と自治体と企業が協力していくための方法を学ぶことができました。

県内の活動だけでは得られない視点を持つことができ、今後の活動に活かしていきたいと思いました。また、他の団体や企業のブースについて見学をしたことで、気候変動についてより多くの人に関心を持ってもらうためのアイデアを得ることができました。

「マンホールカードの聖地」が熱い！
カンボジア版マンホールカードの配布を始めました

マンホールは、地下にある下水道管の確認や修理を行うための、重要な施設点検口です。昭和60年代に各自治体により名産や特色を織り交ぜたマンホールのデザイン化が進みました。これをカードにして平成25年から配布しているのが「マンホールカード」で、令和5年5月現在、653の自治体、3団体から941種類のマンホールカードが発行されています。

滋賀県でも流域下水道のマンホールカードを作成し、淡海環境プラザ来館者に無料で配布しています。図柄は「山峰と琵琶湖」「ヨット」「かいつぶり」が描かれ、「母なる湖」である琵琶湖を未来永劫(えいごう)引き継ぐという想いが込められています。

カンボジア王国
シェムリアップ市
(日本語版)

カンボジア王国
シェムリアップ市
(クメール語版)

淡海環境プラザでは、滋賀県・市町(旧50市町村)のデザインマンホール蓋を展示しています。

カンボジアマンホールカードの配布初日。早朝から人が並び始め、開館前には長い行列ができました。

そして55枚のマンホール蓋(ふた)が並び、ファンから“マンホールの聖地”と呼ばれる淡海環境プラザで、４月28日からカンボジア王国シェムリアップ市のマンホールカードの配布が始まりました。これは、海外版マンホールカードの第1号で、カンボジアと日本で配布中です。日本では淡海環境プラザだけの配布とあって、連日多くの方が来館されています。

マンホールカードをきっかけに、皆さんの生活に欠かすことのできない下水道に興味を持っていただければと思います。

ベトナム ハロン湾から
～長期派遣専門家からの便り～

JICA（国際協力機構）の専門家「グリーン成長政策アドバイザー」の活動を紹介します。

馬肉の鍋料理

海鮮料理

海鮮レストラン内の生け簀

日本でも人気のベトナム料理は中国とフランスの食文化の影響を受けていると言われますが、地方にはその土地の風土や環境、歴史と深くかかわった伝統的な郷土料理があります。2年間のベトナム滞在の間、離島や農村、山岳地帯などを訪問した際にそうした郷土料理を食べました。川魚や野鳥、馬肉や地場野菜など地域の食材を使い、長い間継承されてきた伝統料理は、日本で食べたベトナム料理とは全く異なるもので、ベトナムの食の多様性に驚きました。

ここハロン湾は海の幸に恵まれ、鮮度が高く、内陸部より手頃な値段で食べられる海鮮料理が有名で、観光客の人気になっています。淡白な魚介類なので素材の味を生かした薄味のものが出されます。一方、それにつけるソースは種類が多く、違った味を楽しむことができます。魚醤ヌクマムや塩漬けしたエビを発酵させたマムトムなどが一般的ですが、醤油とワサビを出すお店もあります。

滋賀の「CO_2ネットゼロ社会」に向けた情報をお届け
ネットゼロ通信 2023.6 Vol.3
しがCO_2ネットゼロムーブメント
滋賀県では、2050年までにCO_2ネットゼロ＝排出量"実質"ゼロにすることを目指しています。

この野菜、どこで栽培されているか知っていますか？

――"マルシェ"でCO_2ネットゼロにつながる選択をしよう

マルシェ*に行ったことはありますか？マルシェでは、農産物や加工品だけでなく花・雑貨・衣料品などを幅広い生産者が直接販売しています。マルシェの特徴のひとつである「**地産地消**」は、地元で採れたり生産されたりしたものをその地域で消費するため、栄養価が高く新鮮な状態で食べられたり、お店まで運ぶためのエネルギーが少なくて済んだりします。このように、マルシェは楽しく買い物をする場としてだけでなく、**CO_2排出量を抑える**地産地消につながるものとして、盛んに取り組まれています。

*：フランス語で「市場」を表す"marché"に由来

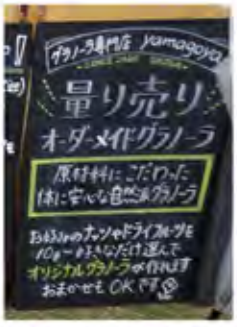
つぎの週末は マルシェでお買い物をしよう

地元の商品を購入できる

マルシェ最大の利点は、地元で生産・加工された商品を購入できること。隠れた地元の名品にも出会えるチャンス！一般にマルシェなどの生産者直売所で並ぶ品は、新鮮である上に流通のプロセスを経ずに販売されるため比較的低価格であることが多いです。気に入ったものを一つ購入することも立派な地産地消への貢献です！

容器も食品も捨てずに済む

日本における食品ロスは、年間522万トン**。これは、一人あたり毎日おにぎり１個分の食べ物を捨てていることになります。必要な分だけ購入することで、本来食べられるはずの食品ロスをなくすことができます。また、持参した容器で持ち帰ることで、パッケージに使用されるプラスチックの削減につながります。



**：消費者庁「食品ロス削減ガイドブック」より

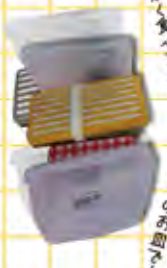
生産者の顔が見える

生産者と消費者が顔を合わせられることもマルシェならではの体験です。ブースに並んでいる野菜やコーヒー豆等の商品が、どのように生産され、どのような想いで販売されているのか直接伺うことができます。それぞれ違った話が聞けること間違いなし。互いに顔が見えると、売る方も買う方も安心できますね。

マルシェでやってみよう！ ネットゼロアクション

- 地元の商品を買ってみよう
- 生産者に話を聞いて、より環境に配慮した商品を選んでみよう
- 必要なものを 必要な分だけ 購入しよう
- マイ容器・タッパーを持参しよう

量り売り商品の持ち帰りや食事の際には、自分が好きなお皿や容器で。使い捨て容器より、なんだか美味しそうに見えて気分が上がりませんか？



- エコバッグを持参しよう

レジ袋有料化を機に持ち歩く人も増えました。レジ袋に使用されるプラスチックの削減によって、CO_2排出量の削減につながります。"素材"にも注目し、リサイクル素材などで作られたエコバッグを使うと尚良し！

-滋賀県では-

"地球の健康"について考えてみよう

環境配慮に取り組むオーガニックマルシェを開催 ――くさつFarmers'Market

滋賀県内で定期的にマルシェを開催している"くさつFarmers'Market"。近隣都市へのアクセスも良好な草津の地に、北は長浜、南は大津まで県全域から出店者が集まります。販売される商品は、化学肥料および農薬を使用せず、土壌においてCO2を固定する機能が高まったり、たい肥を利用するなど、循環型農業につながる**「有機栽培(オーガニック)」**の手法が採られているものが中心です。その他、マルシェで提供されるプラスチック容器等の削減によって、**CO_2排出量削減**にも貢献しています。

＼マルシェで売る人・買う人 みんなでつくる／ ゴミを出さない取り組み

そもそも会場にゴミ箱がない!?

自分が出したゴミの量が目に見える

- 普段何気なく使用している使い捨て用品に意識を向けてほしい
- 出店者さんにどれくらいゴミが出ているか実感してほしい

使い捨て容器は、普段ならそのまま近くのゴミ箱に捨ててしまいがちですが、会場にゴミ箱がないことで、出店者・消費者ともに一旦立ち止まってエコについて考えるきっかけになっています。

くさつFarmers'Market
一日常の延長線上にあるような場所

- place 草津川跡地公園de愛ひろば(区間5)
- date 毎月 第2・第4日曜日
- time 10:00～13:00
  ※7～9月▶第2・第4 土曜日 17:00～20:00
- hp https://kfm-shiga.net/ くさつFarmers'Market HP

初めて来る人も気軽にネットゼロ!!

2R∴から始めよう

Reduce&Reuse

∴：リデュース・リユース

くさつFarmers'Marketでは、空き瓶や使わなくなったコップを煮沸して提供することで、使い捨てされるプラスチック容器の削減を促したり、紙袋を再利用し、来場者が商品の持ち帰りに使用できるようにすることで、CO_2排出量の削減につなげています。【選ぶ(Choose)→使う(Use)→戻す(Return)】を繰り返すことで、ゴミを出さない工夫をしています。

Profile

くさつFarmers'Market 発起人
内田 修次(うちだ・しゅうじ) さん

大学時代にニュージーランドに留学。現地で毎週末開催されていたファーマーズマーケットでは、"買い物"という日常的な行為を通じて街の人と生産者が交流し、コミュニケーションが生まれていた。日本でもこのような温かい場が広がってほしいという想いから、大学在学中に「くさつFarmers'Market」を立ち上げる。2023年4月で4周年を迎えた。

留学先の経験と友人の病気がきっかけで、人の健康について考えたとき、人が生きる環境である「地球」が健康でなければ成り立たないのではないかと思ったんです。そういう意味で、化学肥料や農薬を使わないオーガニック製品は、人の健康と同時に「地球の健康」を守ることにつながると思います。オーガニック製品の"高い"といったイメージを払拭し、日本でもっと日常的なものにしたいです。

補助金のお知らせ

令和5年度 スマート・ライフスタイル普及促進事業補助金

既存住宅の断熱改修・太陽光発電導入・省エネ化を支援します。

6月1日から補助金の申請受付開始！

詳細は、下記HPをご覧ください。

申請先　公益財団法人 淡海環境保全財団
（滋賀県地球温暖化防止活動推進センター）
https://www.ohmi.or.jp/ondanka/subsidy/r05smart-life/

おしらせ ※詳しくは財団HPをご覧ください。

COOL CHOICEポスター募集中!!

これ以上地球温暖化が進まないよう、暮らしの中で行う「COOL CHOICE（＝賢い選択）」のポスターを、児童生徒の皆さんを対象に募集します。

応募締切 9月15日(金)

最優秀賞　「滋賀県知事賞」
(副賞：5000円の図書券・5000円相当の賞品)

特別賞　「京セラ賞」「東京センチュリー賞」
「滋賀県地球温暖化防止活動推進センター長賞」
(副賞：3000円の図書券・3000円相当の賞品)

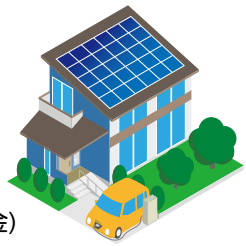
受賞作品を使用して
カレンダーを作成します

昨年度最優秀賞
滋賀県知事賞 受賞作品

令和5年度 スマート・ライフスタイル普及促進事業補助金 申請受付中

補助制度の詳細、申請様式はこちらから

補助金の対象事業を拡充しました！この機会にお家のスマート化に取り組んでみませんか？
太陽光発電システムの導入や断熱改修を進め、快適で家計にやさしく地球にもやさしい暮らしの脱炭素を始めましょう！



募集期間　令和５年６月１日(木) ～ 令和６年２月16日(金)

補助の対象設備　※個人用既存住宅が対象です。

太陽光発電システム、蓄電池、高効率給湯器、断熱改修（壁･窓等、窓のみ）、太陽熱利用システム、V2H、高効率空調設備、高機能換気設備、高効率照明機器

●**次世代自動車普及促進事業補助金**も申請受付中です。

光熱費高騰の今！
省エネ住宅でこんなにお得！

イベント情報　2023年 6月～9月

イベント名	開催日	時間	場所	内容
環びわこ学生ネットゼロムーブメント事業 ～まなび・つながり・ひろがる～	6月24日～12月 オンライン・対面で複数回開催 ※詳細はホームページでご確認ください			温暖化防止のため、今年はサスティナブルファッションとマイボトル持参率向上をテーマに活動を行います。グループ単位で企画、実践、発信し、学生発のムーブメントに広げます。
“しがCO_2ネットゼロ”ムーブメント エコキッズ博士になろう！	8月20日(日)	10:00 ～ 17:00	イオンモール草津 1F　セントラルコート	家族で楽しみながら温暖化防止のためにできることを考え、CO_2ネットゼロに向けた行動につなげていただくきっかけの場として開催します。
やばせKIPデー	毎月 第２日曜日	10:00 ～ 16:00	矢橋帰帆島公園 ※詳細は矢橋帰帆島公園のホームページでご確認ください	ワークショップ、キッチンカー、ミニステージなど、親子向けの多彩な内容で、自然の中で遊び、学び、楽しめるイベントです。財団職員が参加するバンド「音蜜奏新」が下水道啓発のミニステージに出演しています。

公益財団法人 淡海環境保全財団「明日の淡海」
VOL.42　2023年6月
(年4回発行)

発行 公益財団法人 淡海環境保全財団
〒525-0066　滋賀県草津市矢橋町帰帆2108番地
TEL:077-569-5301　FAX:077-569-5304　E-mail:info@ohmi.or.jp
【滋賀県地球温暖化防止活動推進センター】
TEL:077-569-5301　FAX:077-569-5304　E-mail:ondanka@ohmi.or.jp
【淡海環境プラザ】
TEL:077-569-5306　FAX:077-569-5334　E-mail:plaza@ohmi.or.jp

●用紙：責任ある木質資源や再生資源を使用したFSC®認証用紙
●インキ：環境配慮型インキ（植物油インキ or ノンVOCインキ）
●印刷：有害な廃液を排出しない水なし印刷

編集後記　今年の南湖は７年ぶりに外来種のコカナダモが多い模様。自ら茎を切り、その切れ藻から繁茂し湖岸に漂着する奴。景観や悪臭に悩まされたあの夏の再来とならないよう早めに対処しつつ、利活用の道を探ります。